

「神への賛美」

2018年11月09日

ローマの信徒への手紙 16章 25節～27節 神は、わたしの福音すなわちイエス・キリストについての宣教によって、あなたがたを強めることがおできになります。この福音は、世々にわたって隠されていた、秘められた計画を啓示するものです。その計画は今や現されて、永遠の神の命令のままに、預言者たちの書き物を通して、信仰による従順に導くため、すべての異邦人に知られるようになりました。この知恵ある唯一の神に、イエス・キリストを通して栄光が世々限りなくありますように、アーメン。

新共同訳聖書のローマ書 16章 23節は、「わたしとこちらの教会全体が世話になっている家の主人ガイオが、よろしくとのことです。市の経理係エラストと兄弟のクアルトが、よろしくと言っています」である。そして、25節の「神は、わたしの福音すなわちイエス・キリストについての宣教によって、あなたがたを強めることがおできになります」につながっている。24節が欠落している。このことに関し、底本に節が欠けている箇所の変本には、「わたしたちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがた一同と共にあるように」という24節を補う訳文があると説明している。

パウロの手紙を受け取ると、教会の指導者が読み上げ、10人の弟子たちが口述筆記する。すると、10通の手紙の写しができる。その時、読み手が言い間違い、書き手が書き間違えることはあつたらう。それらを、諸教会に回覧するように送った。更に、時代が下がると、こう表現した方が正しく伝わると、言い換えや、訂正をしたこともあつた。原文を分かりやすくしようと、後世の人々が修正、加筆してきたのである。原文を確定することは容易なことではないが、最近の聖書学は、文献批判が厳密になったので、正確な原文が摘出されている。整合性の取れたものは、後世の修正、加筆で、荒々しく粗野のものが原文だと判断されている。

ローマ書の最後、「神への賛美」とタイトルされている 25節～27節は、典型的な後世の加筆である。パウロが書いたものではない。岩波訳聖書の全文を転載してみたい。[あなたがたを強固にすることができる方に、[すなわち、]私の福音とイエス・キリストの宣教によってまた永遠の時にわたって沈黙させられてきた奥義の啓示によって、しかし今や、預言の書をとおして明らかにされ、信仰の従順へ[と至らせるため]の永遠の神の命令のままに、すべての民に告げ知らされた奥義の啓示によって[あなたがたを強固にすることができる方に]、すなわち唯一の、知恵ある神に、イエス・キリストをとおして、栄光がとこしえにあるように。アーメン。]何と高度な文体ではないか。ここにはパウロの罪に呻き、苦しむ姿、その罪が赦され解放された歓喜の叫び、また、宣教の場における反対する者たちへの怒りと苦闘、更に、諸教会で起きた問題に対する条理を尽くした教えなどの生々しい響きは全くない。後世の人が、パウロの福音理解を高い次元で要約し、ローマ書の最後に書き加えたのであろう。世々にわたって沈黙させられてきた福音の奥義は、預言書を通して明らかにされ、奥義の啓示によってあなたがたを信仰の従順へと強固にする知恵ある神に、イエス・キリストを通して栄光あれとの「神賛美」で締め括っている。

私たちは聖書を通して福音を知らされているが、事實は、主イエスの生涯、十字架と復活の出来事に救いを見出した弟子たちが、聖書を書き残したのである。書き残した言葉には、厳然とした主イエスの出来事があつた。言葉を導き出させた主イエスのリアルな出来事に触れることが福音に与るといふことである。